

令和4年度 文化庁 日本語教育人材の研修プログラム普及事業

生活者に対する日本語教師（初任）研修報告

実施機関名	株式会社インターカルト日本語学校
事業名	生活者のための研修プログラム普及事業
研修実施地域	全国・海外(中国)
事業実施期間	令和4年8月～令和5年2月
研修受講者数	日本語教師【初任】研修 90名 担当講師育成研修 7名

研修報告の構成

1. 研修実施機関概要
2. 事業概要（目的・実施体制）
3. 研修の目的・ねらい
 - 3.1. 求められる資質・能力と研修における教育内容の関係
 - 3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）
 - 3.3. 研修実施体制
 - 3.4. 募集・選考・受講者・修了者の情報
 - 3.5. 研修の様子
 - 3.6. 研修前後のフォローアップ体制（学びを深めるサポート等）
 - 3.7. 評価
4. 事業評価概要（評価の観点及び検証方法、検証結果）
5. 成果と課題

1. 研修実施機関概要

研修実施機関名：インターカルト日本語学校



<https://www.incul.com>



1977年創立

(1977年 日本語教育事業・1978年 日本語教師養成事業)

【理念】

・Cross Cultural Communications

国、文化、言葉の違いを理解し、人と人々が尊重し合える社会を創ります

・Japanese for everyone who needs it

日本語を必要とするすべての人のために、日本語教育の提供と支援をします

【主な事業】

・日本語教育事業・日本語教師養成事業・教育IT開発事業・教材の出版・学生寮の運営

【組織】

- ・[認証・評価] ・「日本語教育機関の第三者評価基準項目に適合する機関」認定(2016年)
- ・ISO29991「公式教育外の語学学習サービス」国際認証取得(2016年)
- ・[所属会議等] ・「日本語教育の質の維持向上の仕組みに関する有識者会議」委員
- ・「東京の地域日本語教育に係る調整会議」委員
- ・「台東区多文化共生推進プラン策定委員会」委員



東京都台東区台東2-20-9

事業の目的

日本語を母語としない生活者としての外国人が、言語・文化の相互尊重を前提としながら日本語で意思疎通を図り、自立した社会の一員となるために必要な日本語教育の基盤を担う、専門性を有する「日本語教師初任者の研修プログラム」を全国に普及することを目的とする。

2. 事業概要（目的・実施体制）

日本語教師【初任】研修の目的

- 日本語教育者として「生活としての外国人」の様々な『多様』に臨機応変に対応できる応用力者と柔軟性を身につけることを目的とする。

担当講師育成研修の目的

- 令和2年度、3年度の担当講師育成研修のワークショップを受講した受講者が、今年度の研修担当講師の育成研修をコーディネーターとして企画、運営し、各々の地域の課題に対し取組むための知識、能力を身につけ自立を目指すことを目標とする。また、今年度の研修の参加者が自身が属する地域において必要とされる日本語教育人材（初任日本語教師）を育成するための能力をつけることを目標とする。

3. 研修の目的・ねらい・特徴①

日本語教師【初任】研修の目的、ねらい、研修の特徴

- ✓ 「講義」「地域の事例研究」「課題」に分けて行う。
- ✓ 「講義」は、地域の日本語教育において知見を有する講師陣から、基本的な知識と共に、「生活者としての外国人」のおかれている現状と取組み、「生活者としての外国人」に対する教師として必要な知識、技能、姿勢を学ぶ。
- ✓ 「地域の事例研究」は北海道、福島、静岡、島根での取組みを学び、受講生の住む地域での取組みについて、課題として調査する。
- ✓ コロナが続く中でも継続的に生活支援、学習支援をするためのオンラインの知識を学び、効果的なアプリ等を知り、触り、体験する。
- ✓ さらに学びを深めたい方のために、北海道・東北・東海ブロックが主催するワークショップに参加可能。

「生活者としての外国人」に対する
日本語教師【初任】研修を受講する



修了後



修了後、さらに学びを深めたい
北海道ブロック・東北ブロック・東海ブ
ロックのワークショップに参加する

3. 研修の目的・ねらい・特徴②

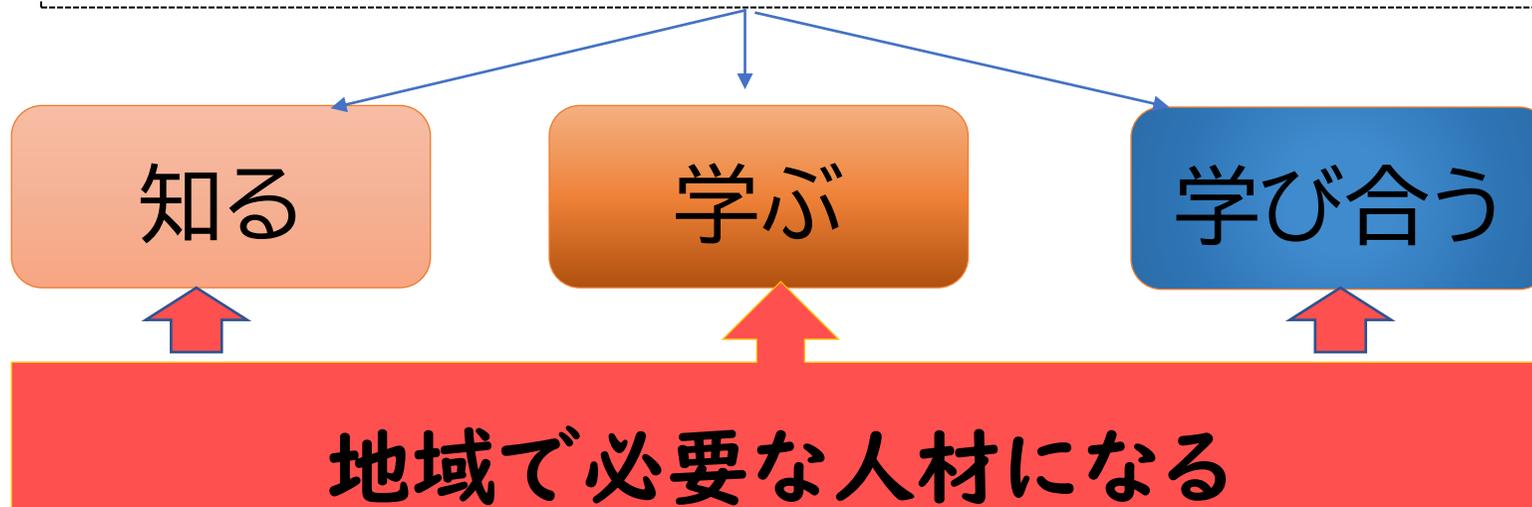
担当講師育成研修の目的、ねらい、研修の特徴

- ✓ 令和2年度、3年度、今年度の受講生から**担当講師育成研修受講生**をブロックの主たるメンバーが選出。各ブロックが主催するワークショップについて、課題の分析、企画、運営、振り返り、報告まで全て主たるメンバーと共に行う。
- ✓ 各ブロックの主たるメンバーと**担当講師育成研修受講生**がワークショップの企画、運営を行う。
- ✓ 各ブロックの主たるメンバーと**担当講師育成研修受講生**がワークショップ実施のため、課題の分析を行う。
- ✓ ワorkshopの実施の中で、**担当講師育成研修受講生**は研修の一端を担う。
- ✓ ワorkshop修了後、**担当講師育成研修受講生**はワークショップ受講生の課題についての振り返りを主たるメンバーと行う。
- ✓ 事業全体の報告会で、各ブロックのワークショップの報告を**担当講師育成研修受講生**が担う。

3.1. 求められる資質・能力と研修における教育内容の関係

求められる資質・能力

- ★「地域日本語教室で日本語を教える際の姿勢」
- ★「多文化共生に関する知識」
- ★「自力で授業が組み立てられる能力」
- ★「臨機応変に対応できる知識と技能」
- ★「コロナ禍でも継続的に生活支援、学習支援をするためのオンラインの知識・技能」



3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）①

日本語教師【初任】研修スケジュール オンライン開催

生活者に関する日本語教育				
1	8月20日	日本語教育を取り巻く現状と変化	西原鈴子	特定非営利活動法人 日本語教育研究所理事長
2	8月27日	「日本語教育の参照枠」とは ～その背景と内容、そして今後～	加藤早苗	インターカルト日本語教員養成研究所所長
3	9月3日	地域の日本語教室における日本語教師の役割	伊東祐郎	国際教養大学 専門職大学院 日本語教育実践領域 代表
地域のICT				
4	9月10日	地域日本語教育におけるICTの活用と 教師の役割	山田智久	西南学院大学教授
5	9月17日	生活者のためのICT講座「知って触って考えて 活かす」①②	久我 瞳	Semiosis 株式会社研修担当講師
6	9月24日	生活者のためのICT講座「知って触って考えて 活かす」③	久我 瞳	Semiosis 株式会社研修担当講師
多文化共生				
7	10月1日	多文化共生における生活者支援 ～日本語教師に求められる役割とは～	新居みどり	特定非営利活動法人CINGA コーディネーター
8	10月8日	学習者から、一緒に働くスタッフへ 在住外国人が活躍する、ひらがなネットの 多文化共生事業	戸嶋浩子 吉澤弥重子	ひらがなネット株式会社 代表取締役 ひらがなネット株式会社 取締役
9	10月15日	身近な異文化を理解しよう ～となりの人をよく知るために～	室田真由見	千葉大学・東京医科歯科大学・獨協大学・東京海洋大学 非常勤講師

3.2. 研修概要 (実施スケジュール・教育内容・教育方法) ②

地域日本語教育 1				
10	10月22日	生活者としての外国人高校生への未来につながるキャリア支援	河村八千子	特定非営利活動法人フロンティアとよはし理事長
11	10月29日	「生活者」に関わる日本語教師の姿勢 ～学習活動から考える～	萬浪絵理	特定非営利活動法人CINGA 地域日本語研究チーム コーディネーター
12	11月5日	日本語学習者が話しやすい質問の仕方について考え、 日々の教室で役立てる ～学習者が答えやすい「質問」とは？～	立部文崇	周南公立大学 経済学部 准教授 地域共創センター長 学長補佐(社会産学連携・グローバル化戦略部門)
13	11月12日	外国人のお母さんへの言語支援の在り方 ～「生活者としての外国人に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」(文化庁)における子育ての生活Candoを例に～	関崎友愛	日本語サービスYOU&I 代表
14	11月19日	ライフステージに寄り添う「地域」日本語教育を考える ～NPO法人フィリピンナガイサの活動事例から～	半場和美	特定非営利活動法人フィリピンナガイサ事務局長
地域日本語教育 2				
15	11月26日	(福島)の取組み 災害に備える ～外国人住民との協働～	幕田順子 佐々木千賀子	一般社団法人ふくしま多言語フォーラム理事 蓬莱日本語教室 副代表
16	12月3日	(北海道)の取組み 空白地域における日本語学習支援 ～北海道内での取組みを例に～	大井裕子 阿部仁美	一般社団法人北海道日本語センター理事 一般社団法人北海道日本語センター理事
17	12月10日	(島根)の取組み ～日本語がどこでも学べる環境づくり～	仙田武司	公益財団法人しまね国際センター 多文化共生推進課長

3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）③

学習の意欲を高めるための知識や技能				
18	12月17日	「生活者としての外国人」のための教員教材のリソースと著作権	渡辺唯広 大橋由希	凡人社 編集部編集長 凡人社 編集部主任
		これからの日本語教師と日本語教育の可能性	加藤早苗	インターカルト日本語教員養成研究所所長

日本語教師【初任】研修 研修内容

講師	研修タイトル	研修内容
西原鈴子	日本語教育を取り巻く現状と変化	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生社会への社会統合を目指す日本の現状 ・日本語教育の変革と展望 ・日本語教育関係者の社会的使命との実践の在り方
加藤早苗	「日本語教育の参照枠」とは～その背景と内容、そして今後～	<ul style="list-style-type: none"> ・生活者としての外国人について、文化審議会報告書で指摘されている課題を理解する。 ・外国籍の人たちと関わる日本人の声、日本に住む外国籍の人たちの声を知り、自身自身の課題を明らかにする。 ・「日本語教育の参照枠」についての説明を聞き、自分事として深く理解する。 ・「日本語教育の質の維持向上の仕組みに関する有識者会議」の審議内容について知る。
伊東祐郎	地域の日本語教室における日本語教師の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル社会で何が起きているのかの共有 ・外国人受け入れで何が課題となっているのかの確認 ・グローバル社会における日本語教育の役割の検討 ・“地域の日本語教室”の“地域づくり”における役割の確認 ・日本語教育の現状：拡大化と多様化の把握 ・日本語教師の資格認定の実際についての理解 ・日本語教師の実践能力に関する先行研究の振り返り ・文化審議会と日本語教育人材についての理解 ・“グローバル社会”における日本語教師の役割と専門性の確認

3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）④

講師	研修タイトル	研修内容
山田智久	地域日本語教育におけるICTの活用と教師の役割	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語教育を取り巻くICTの変移 <ul style="list-style-type: none"> ・外国語教育におけるICTの定義 ・過去から現在までに用いられてきた教育用ツールの概観 ・コロナ禍で変化した日本語教師とICTの関わり方の変化 ・オンライン授業の分類提示と授業・学習の変化の分析 ○ICTと日本語教師の関わり方 <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングの重要性 - 脳を動かす、対話、著作権、不規則性… ・ICTリテラシー - ICTスキルの分類と説明 ○問題解決志向的で考える重要性 <ul style="list-style-type: none"> ・事実志向と問題解決志向の捉え方 ・問題解決志向フォーマット ・授業で使うタスクの類型(コレクターにならないために) ○まとめ <ul style="list-style-type: none"> <重要なこと4点> <ul style="list-style-type: none"> ・解決したい問題を言語化する力 ・わからないことを検索する力 ・情報や扱う項目を「捨てる」力 ・問い続ける力
久我 瞳	生活者のためのICT講座「知って触って考えて活かす」①②	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室でICTを活用するときの視点とは(つながり、反応、視覚化) ・「つながり」を活かした教材体験と活用アイデアの共有 ・「反応」を活かした教材体験と活用アイデアの共有 ・実践活動のふりかえり
久我 瞳	生活者のためのICT講座「知って触って考えて活かす」③	<ul style="list-style-type: none"> ・前回講義の振り返り(ICTの「つながり」「反応」の特性を活かした活用方法) ・ICTの「視覚化」の特性を活かした教材体験と活用アイデアの共有 ・実践活動のふりかえり ・前回講義の質問への解答(画像の背景透明化 他)

3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）⑤

講師	研修タイトル	研修内容
新居みどり	多文化共生における生活者支援 ～日本語教師に求められる役割とは～	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人相談の基礎知識としての言葉の整理 ・外国人の困ったにある3つの壁の提示 ・外国人相談センターの機能とその種類を説明 ・地域日本語教育の在り方「相互理解と相互支援」を説明 ・地域日本語教室の地域における機能と日本語教師の役割について説明
戸嶋浩子 吉澤弥重子	学習者から、一緒に働くスタッフへ 在住外国人が活躍する、ひらがなネット の多文化共生事業	<ul style="list-style-type: none"> ・当社「多文化共生事業」の紹介 ・トークセッション「外国で暮らすということ」 ・「多文化共生」について考える ・トークセッション「あなたの町の多文化共生」 ・個人ワークと共有、発表「あなたが地域の外国人と一緒にしてみたいこと」 ・「ひらがなネット外国人スタッフと考える、外国人として働くこと」 外国人スタッフ2名の来日からこれまでと、現在の活躍
室田真由見	身近な異文化を理解しよう ～となりの人をよく知るために～	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解力、異文化コミュニケーションが大切なのはなぜ？ ・文化・異文化とは ・実践紹介～日本語の教室より ・異文化理解から多文化共生へ
河村八千子	生活者としての外国人高校生への未来 につながるキャリア支援	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人 フロンティアとよはしの活動紹介 ・学習支援だけではダメだ、と気づかされた時 ・外国人高校生に向けたキャリア教育事業これまでの歩み ・これまで取り組んできた事業内容について ・彼らが日本で幸せに暮らすために必要なこと、そのために私たちができることとは ・日本で幸せに暮らしていくにあたって彼らにとって必要なことは何か ・支援者として何ができるのか ・「教育」は日本の未来に向けた「投資」である

3.2. 研修概要 (実施スケジュール・教育内容・教育方法) ⑥

講師	研修タイトル	研修内容
萬浪絵理	「生活者」に関わる日本語教師の姿勢 ～学習活動から考える～	<ul style="list-style-type: none"> 生活者に関わる日本語教師の役割 実践活動紹介 <ol style="list-style-type: none"> 1)市民同士の対話活動をととした日本語学習支援 2)基礎的な言語能力と対話の姿勢を育む日本語教育 生活者に関わる日本語教師の姿勢
立部文崇	日本語学習者が話しやすい質問の仕方について考え、日々の教室で役立てる ～学習者が答えやすい「質問」とは?～	<ul style="list-style-type: none"> 多様なニーズに対して、言語教育に関わる自分たちだからことできることを考える 第2言語で事情を話すということの難しさを知る 事情を聞く方法を知る(司法面接という手法を参考に) 実際に事情を聞く練習を試してみる
関崎友愛	外国人のお母さんへの言語支援の在り方 ～「生活者としての外国人に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」(文化庁)における子育ての生活Candoを例に～	<ul style="list-style-type: none"> 日本で子育てをする外国人のお母さんの困りごと 行政・子育て関連機関側の困りごと 外国人のお母さんに必要な日本語コミュニケーション能力とは文化庁「標準的なカリキュラム案」における「子育て」に関するCandoの紹介 外国人のお母さんへの言語支援の在り方
半場和美	ライフステージに寄り添う「地域」日本語教育を考える ～NPO法人フィリピンナガイサの活動事例から～	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教師にとっての自己理解とは 現代におけるキャリア形成の捉え方 人生100年時代の社会人基礎力から、地域日本語教育を考える 日本語教育や社会教育と、時代の関連性 フィリピンナガイサの変遷と活動紹介から、「地域」の日本語教室の意義について理解を深め フィリピンナガイサにおける地域日本語教育実践(知の循環型社会主体的・対話的で深い学び、自己効力感、自己一致をキーワードに)

3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）⑦

講師	研修タイトル	研修内容
幕田順子 佐々木千賀子	(福島)の取り組み① 災害に備える～地域とのつながり～	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における外国人の状況 ・自分自身の「災害時における外国人支援」についての考え方、ビフォーアフター ・震災後の福島県国際交流協会の取り組み ・外国人の日本語力と災害時の困りごと ・地域の日本語教室において外国人住民と日本人が対等な関係で日本語活動を行うことで、共に学び合い成長し視野を広げるとともに、お互いの関係性も深まることを確認する ・災害時には外国人も日本人も、助けられる人にもなるし、助ける人にもなることを知り、平時での関係性が大切になることを知る ・日本人、外国人という枠を超えた人間関係が大切で、日本語教師や地域の日本語教室は、その関係を構築するための役目を果たすことができることを知る。そして、そのためにどのような日本語活動を行うことができるか考える
大井裕子 阿部仁美	(北海道)の取り組み 空白地域における日本語学習支援 ～北海道内での取り組みを例に～	<ul style="list-style-type: none"> ・空白地域における日本語学習支援(1)～北海道の取り組み～ 北海道の日本語教育の現状と北海道日本語センターが行った学習支援者養成講座について ・空白地域における日本語学習支援(2)～留萌振興局 小平町、留萌市、増毛町を例に～ 北海道の留萌振興局管内の3か所での事例を紹介 日本語教師として何ができるかを考える
仙田武司	(島根)の取り組み ～日本語がどこでも学べる環境づくり～	<ul style="list-style-type: none"> ○仕組みづくりについて ・島根県の現状と課題 ・課題解決に向けた取り組み ○Can doベースのカリキュラムについて ・オリジナル教材の作成 ・カリキュラム開発の流れ ・成果と課題

3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）⑧

講師	研修タイトル	研修内容
渡辺唯広 大橋由希	「生活者としての外国人」のための の教具教材のリソースと著作権	<ul style="list-style-type: none"> ○教材(学びのリソース)を選ぶ観点と方法を再考する <ul style="list-style-type: none"> ・市販の書籍としての教材を知る ・学習内容や活動の真正性を高める学びのリソースを考える ・地域で独自に開発・頒布されている教材・リソース(主に市販物以外)を知る ○著作物、著作者、著作権が著作権法のなかでどのように扱われているかをみる <ul style="list-style-type: none"> ・市販の日本語教材を例に、上記の(1)でみた著作物や著作権について理解を深める。それと同時に転載という利用方法について理解する。 ○いくつかの想定されるケースをとおして、著作物の適切な利用法を考える。特に「オンラインでの利用」「引用」に焦点を当てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業目的公衆送信補償金制度にもふれる。 ・フリーペーパーの記事を読解素材とすることを例に、「引用」にあたるかどうか考えるケースを提示し、その妥当性を参加者同士で話し合いを行う。見方によってとらえ方が分かれることを確認する。
加藤早苗	これからの日本語教師と日本語 教育の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・研修全体を振り返り、自分自身の日本語教師としての課題とこれからの考える

3.2. 研修概要 (実施スケジュール・教育内容・教育方法) ⑨

担当講師育成研修

- 昨年度、今年度の研修受講生から対象者を選出
- 各ブロックの課題解決に向けてのテーマを決定
- 講師と共にワークショップを企画、実施

1. 「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修の目的の理解

2. ファシリテーター入門講座の受講

実施: 2022年9月24日

講師: 木下理仁 かながわ開発教育センター (K-DEC) 理事・事務局長

東海大学国際学部国際学科 非常勤講師

一般社団法人日本経営協会 講師

元・逗子市 市民協働コーディネーター

元・東京外国語大学国際理解教育専門員 / ボランティア・コーディネーター

内容: ①ワークショップの狙い ②ワークショップの流れ ③ファシリテーターの心構え

3. ワークショップの企画・運営・報告

3.2. 研修概要 (実施スケジュール・教育内容・教育方法) ⑩

担当講師育成研修ワークショップの企画・運営

北海道ブロック



★テーマ

「空白地域に日本語学習支援教室を作ろう！」

★日程

1/14, 1/28, 2/4 ★土曜日
9:30~12:45

★紹介

みなさんの住んでいるところの近くに日本語教室はありますか？実際に日本語学習支援教室を作るには何を考えなければいけないのか、どうすればいいのかをグループのみなさんと一緒に考えます。新しい教室をつくるのってわくわくしますよ。一緒にわくわくを実感しましょう！

東北ブロック



★テーマ

「地域の『防災力×日本語教師力』」

★日程

1/21, 1/28, 2/4 ★土曜日
9:30~12:45

★紹介

災害が起こると、日本人・外国人を問わず被災者となります。だからこそ、平時には一緒に災害に備え、災害時にはお互い助け合うことが重要です。このワークショップでは、日本語教育に携わっている皆さんと外国人協力者の皆さんと一緒に、防災力アップに向けて何ができるかを考えます。

東海ブロック



★テーマ

「日本語教室での対話・学習を促進する教材・資料を作ろう！」

★日程

1/21, 1/28, 2/4 ★土曜日
13:00~16:15

★紹介

地域の日本語教室では、地域のニーズに合わせた活動や対話・学習を促進する活動のデザインが重要となります。本ワークショップでは、このような活動をデザインした上で、活動で使用する様々な教材や資料などを自分自身で制作していくためのノウハウを学びます。資料・教材の制作には、様々なアプリやウェブサービスを活用していきますが、これらの技術に馴染みのない方にも使ってもらえるようなガイドや素材集も準備して進めていきますので、安心してご参加下さい！

一般社団法人
北海道日本語センター
大井裕子・阿部仁美

育成研修受講生 2名

一般社団法人
ふくしま多言語フォーラム
幕田順子
蓬莱日本語教室
佐々木千賀子

育成研修受講生 2名

Semiosis株式会社

都築鉄平・久我 瞳
菅波夏子・立部文崇

育成研修受講生 3名

3.2. 研修概要 (実施スケジュール・教育内容・教育方法) ①①

担当講師育成研修ワークショップ 北海道ブロック

テーマ: 「空白地域に日本語学習支援教室を作ろう!」

<p>ワークショップの目的/ ねらい</p>	<p>日本語教育空白地域という課題の解決の一助とするため、日本語教師が、現在日本語学習支援教室のない地域に、新たに教室を立ち上げられる力を身につけること</p>
<p>ワークショップの特徴</p>	<p>グループ活動を通して、仲間と協働して一つの教室を作るプロセスを疑似体験することにより、実際に日本語教育空白地域で多様な人々と協働して活動をするための知見が得る</p>
<p>3回の流れ</p>	<p>事前課題、場を作る、仲間を作る、内容を作るで、最終日を発表</p>

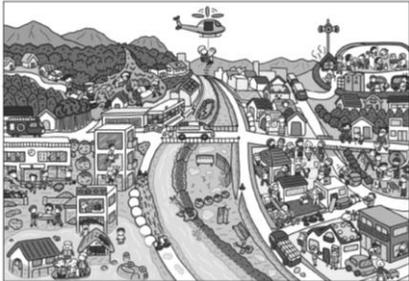
課題・成果



3.2. 研修概要 (実施スケジュール・教育内容・教育方法) ⑫

担当講師育成研修ワークショップ 東北ブロック

テーマ: 「地域の『防災力×日本語教師力』」

<p>ワークショップの目的/ねらい</p>	<p>地域の日本語教室活動において、地域の防災力の向上、ひいては外国人学習者と地域とのつながりの構築に向けて、日本語教師としてどのようなことができるか、自分なりの考えを見出すことができる</p>	
<p>ワークショップの特徴</p>	<p>外国人と日本人がともに、ワークショップに取り組むイラストとカードゲームを使っでの活動</p>	
<p>3回の流れ</p>	<p>1: 自然災害や防災について知識の共有 国際交流協会主催と地域の日本語教室主催の「防災講座」の比較 2: 対話活動と対等性についての意見交換 話を促す2つの防災講座の体験と振り返り 3: 活動案の発表、意見交換、芳賀洋子さんからのコメント</p>	
<p>課題・成果</p>	<p>Aさん: 災害に吞まれないように～心の備えと地域のつながりを作る～ Bさん: 地震や水害 備えは大丈夫? 静岡県地震防災センター見学 いざという時の備えを学ぶ Cさん: 地震・災害から身を守るために</p>	

3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）⑬

担当講師育成研修ワークショップ 東海ブロック ①

テーマ：「日本語教室での対話・学習を促進する教材・資料を作ろう！」

ワークショップの目的/ねらい	地域の日本語教室での活動を考える際に「デジタルツールの活用」という選択肢を持てるようにする ①地域の日本語学習支援におけるニーズや課題を把握する。 ②デジタルの特徴を知り、それを生かした学習支援ツールを作れるようになる。 ②によって①を解決できるようになる人材を育成することで、地域の学習支援における選択肢を増やす。
ワークショップの特徴	パソコンやタブレットでオンライン・オフラインツールに実際に触れながら、アナログとデジタルの違いを実感する。ソフトの使用方法を知るだけでなく、現場のニーズに合わせたツールを制作したりカスタマイズしたりすることを体験する
3回の流れ	1日目: デジタルの特徴を知る / デジタルと教室活動の設定を考える 2日目: 各ソフトの使い方を知る / ソフトを使ったデジタルツールの制作・活用方法を知る 3日目: 課題を想定し、ソフトを使ってその課題を解決するようなツールを制作する

3.2. 研修概要 (その他取組 ポータルサイト 東海ブロック) ⑭

研修終了後も活動の継続を支援するポータルサイトサイトの制作

令和3年度のサイトの画像



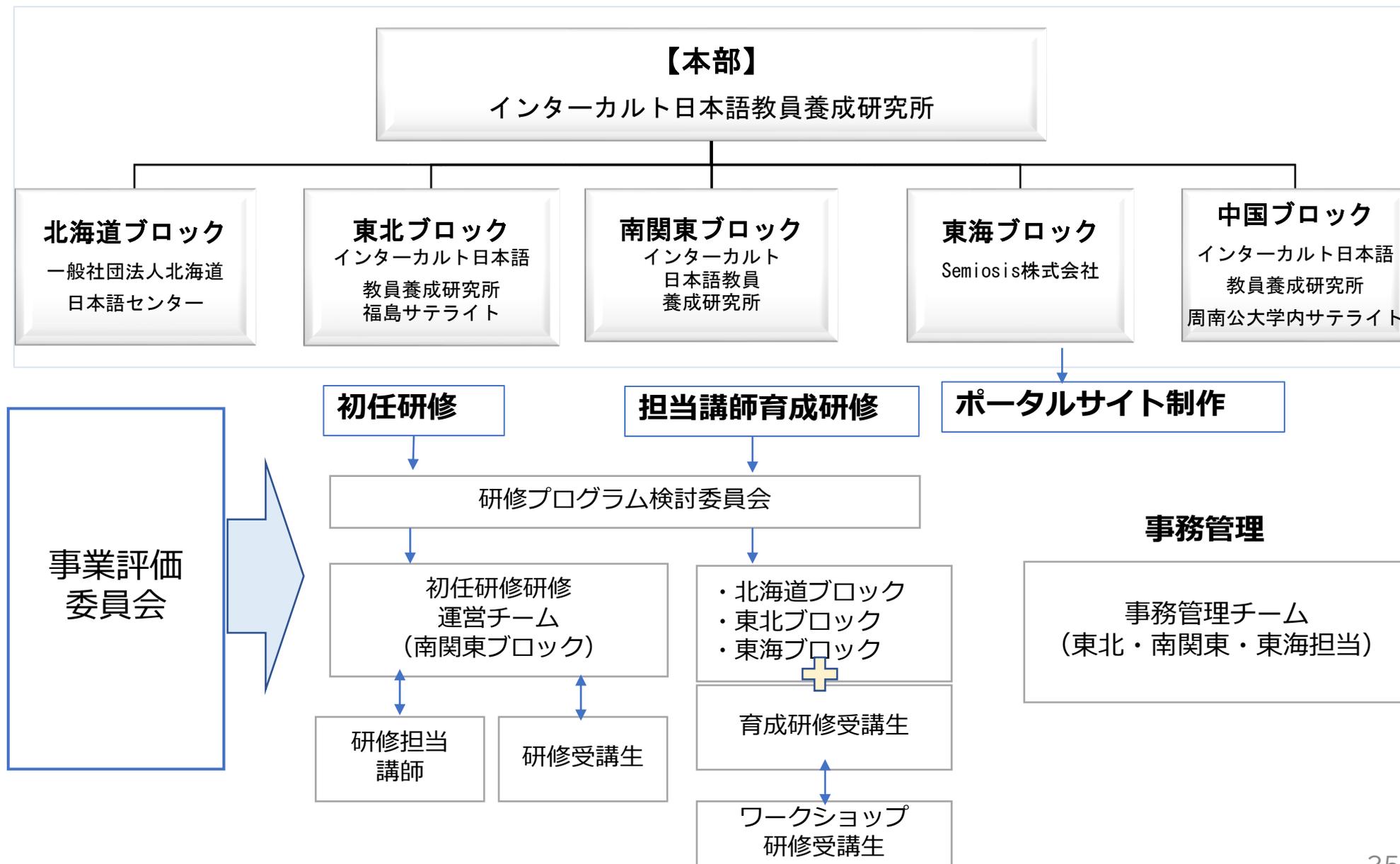
令和4年度のサイトの画像



令和4年度のサイトのトップページ

(<https://seikatsusha.interculturalinstitute.jp/index.php/digital-jissen>)

3.3. 研修実施体制



3.4. 募集・選考・受講者・修了者の情報①

募集期間 令和4年6月13日～令和4年8月17日

令和4年度 文化庁日本語教育人材の研修プログラム普及事業
 主催：インターカルト日本語学校 日本語教員養成研究所

この研修のポイント
知る・学ぶ・学び合う
地域で必要な人材になる

**「生活者としての外国人」に対する
 日本語教師【初任】研修**

2022年8月20日(土) 開講
全18回(8/20-12/17) 全90時間 (ライブ研修+課題)
 ★全ての研修を録画しますので、いつでも、どこでも、視聴は可能です。
 但し、ブレイクアールームを使用しているときの研修の録画は視聴できません。

共催 北海道 一般社団法人 北海道日本語センター
 東北 インターカルト福島サテライト
 中国 インターカルト周南公立大学内サテライト
 東海 Semiosis株式会社

● 受講料 20,000円(税込)
 ● 対象 日本語教師養成講座420時間修了、日本語教育能力検定試験合格
 日本語教師経験0~3年程度の方、他

zoom配信
 研修は全てオンラインでの配信になります

お問い合わせ
 インターカルト日本語学校 日本語教員養成研究所
 〒110-0016 東京都台東区2-20-9
 03-5816-5019 https://www.incul.com/

お申込みは
 こちら

内容

「生活者としての外国人」に対する日本語教育人材に求められる、「地域日本語教室で日本語を教える際の姿勢」や「多文化共生に関する知識」、多様なニーズに対応するための「臨機応変に対応できる知識と技能」/コロナ禍でも継続的に生活支援、学習支援をするためのICTの知識」を広く学びます。
 さらに学びを深めたい方のために、来年の1月にスタートする北海道・東北・東海ブロックが主催するワークショップに参加することができます。研修は全てWEB会議システム「ZOOM」で配信します。

「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修を受講する
 <修了者は文化庁のHPに公開>

2023年

修了後、さらに学びを深めたい北海道ブロック・東北ブロック・東海ブロックのワークショップに参加する

日程 ★全18回(毎週土曜日) 9:30~11:00 11:15~12:45 *最終日 15:00

2022年
 [8月] 8/20、8/27 [11月] 11/5、11/12、11/19、11/26
 [9月] 9/3、9/10、9/17、9/24 [12月] 12/3、12/10、12/17
 [10月] 10/1、10/8、10/15、10/22、10/29
 ★詳しいスケジュールは、HPをご覧ください。

講師

【生活者に関する日本語教育】
 西原鈴子 (特定非営利活動法人 日本語教育研究所理事長)
 伊東祐郎 (国際教養大学専門職大学院日本語教育実践領域 代表)
 加藤早苗 (インターカルト日本語教員養成研究所所長)

【地域のICT】
 山田智久 (西南学院大学教授)
 久我 暁 (Semiosis 株式会社 研修担当講師)

【多文化共生】
 新居みどり (特定非営利活動法人CINGAコーディネーター)
 戸嶋浩子 (ひらがなネット株式会社代表取締役)
 吉澤弥重子 (ひらがなネット株式会社取締役)
 室田真由見 (千葉大学・東京医科歯科大学・筑波大学・東京海洋大学 非常勤講師)

【地域日本語教育 1】
 河村八千子 (特定非営利活動法人フロンティアおよびし理事長)
 萬波絵理 (特定非営利活動法人CINGA 地域日本語研究チーム コーディネーター)
 立部文崇 (周南公立大学経済学部准教授・地域共創センター長・学長補佐)
 関崎友愛 (日本語サービズYOU&I 代表)
 半場和美 (特定非営利活動法人フィリピンガイサ事務局長)

【地域日本語教育 2】
 仙田武司 (公益財団法人しまね国際センター多文化共生推進課長)
 藤田順子 (一般社団法人ふくしま多言語フォーラム理事)
 佐々木千賀子 (蓬莱日本語教室 副代表)
 大井裕子 (一般社団法人北海道日本語センター理事)
 阿部仁美 (一般社団法人北海道日本語センター理事)

【学習の意欲を高めるための知識や技術】
 渡辺唯広 (株式会社凡人社 編集部編集長)
 大橋由希 (株式会社凡人社 編集部主任)
 加藤早苗 (インターカルト日本語教員養成研究所所長)

お申込み 下記のURLかQRコードよりお申込みください。

締め切り 2022年8月17日(水)
 希望者多数の場合は先着順となります。

◆ 募集方法

- ・ peatixで受付

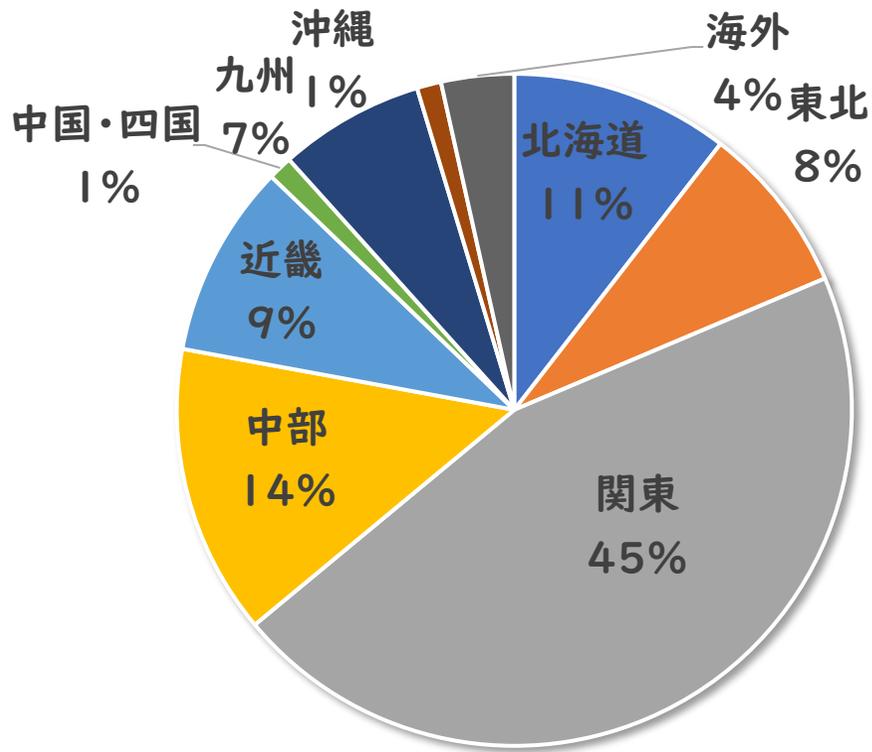
★ 募集先

- ・ インターネット上での広報・国際交流協会、日本語教育機関等へのメール配信、日本語教育関係掲示板
- ・ 各ブロック別に、関連機関等への広報活動

3.4. 募集・選考・受講者・修了者の情報②

受講生の属性(全90人)

居住地域



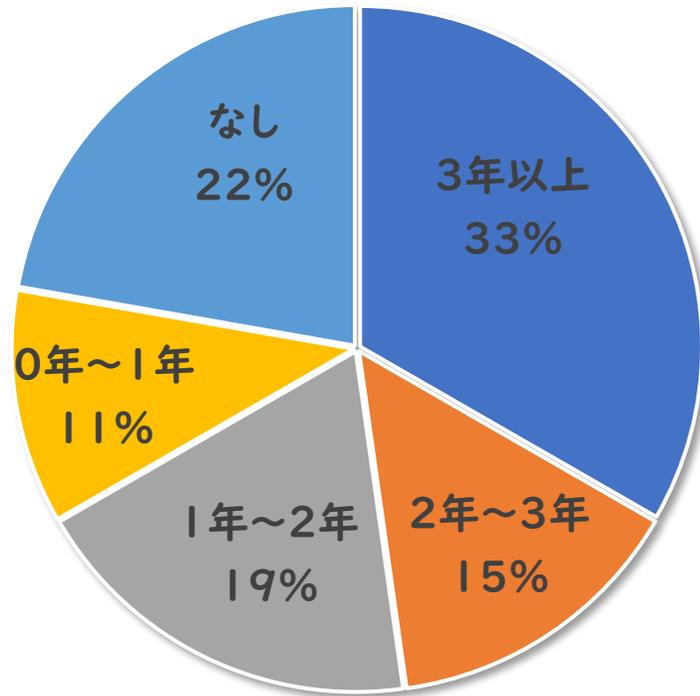
所属

日本語学校
専門学校
海外大学
国際交流協会
学校教育課(日本語指導員)
国際協力交流センター
NPO法人
市役所
地域日本語コーディネーター
団体職員
国際交流振興事業団
日本語ボランティアグループ
会社員
出版社
中小企業海外業務開発促進協同組合
フリーランス

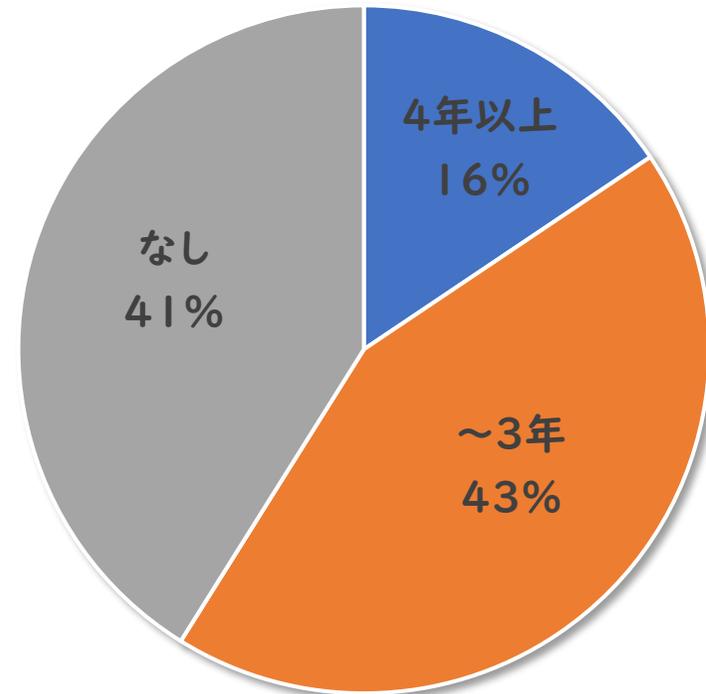
3.4. 募集・選考・受講者・修了者の情報③

受講生の属性(全90人)

日本語教育歴



地域での教育歴



研修修了者数

日本語教師【初任】研修

修了率 85%

- ・有資格者であること（養成講座420時間修了または日本語教育能力検定試験合格、大学で日本語教育の主専攻副専攻で学んでいる）
- ・出席率が90%以上であること（または録画視聴）と毎回のアンケートの提出（録画の視聴をしてアンケートを提出すれば出席となる）
- ・課題の評価課題を全て提出、かつ課題の評価が70点以上であること。

上記の要件を満たした方には修了とみなす。

講師育成研修

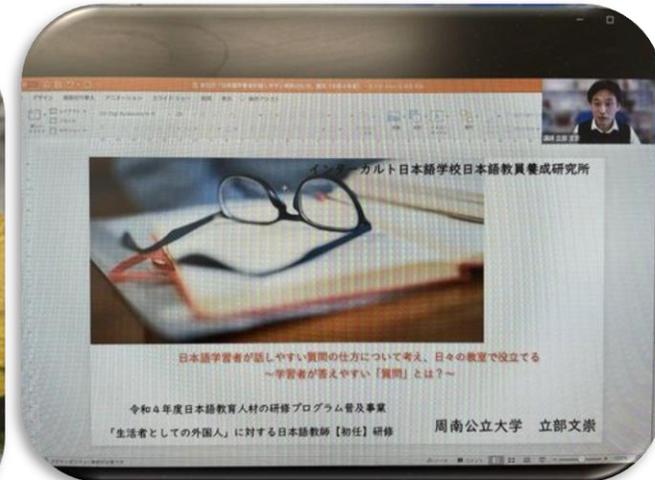
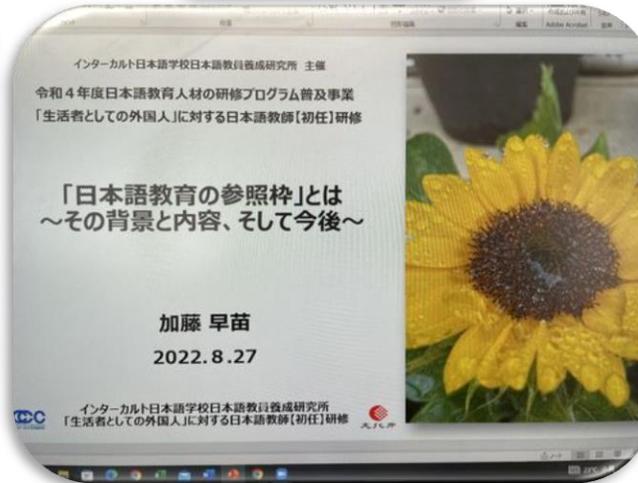
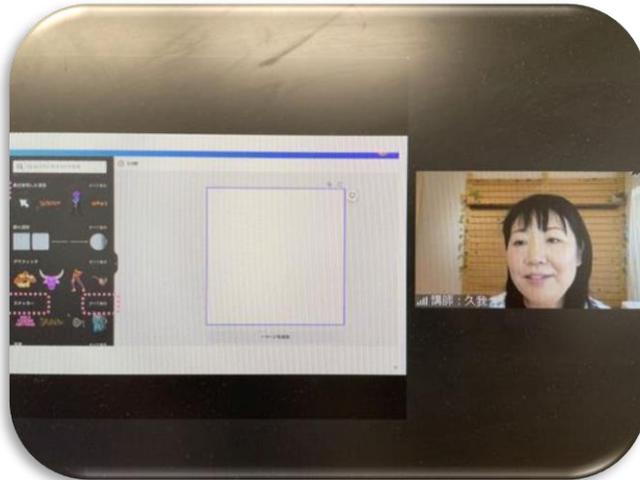
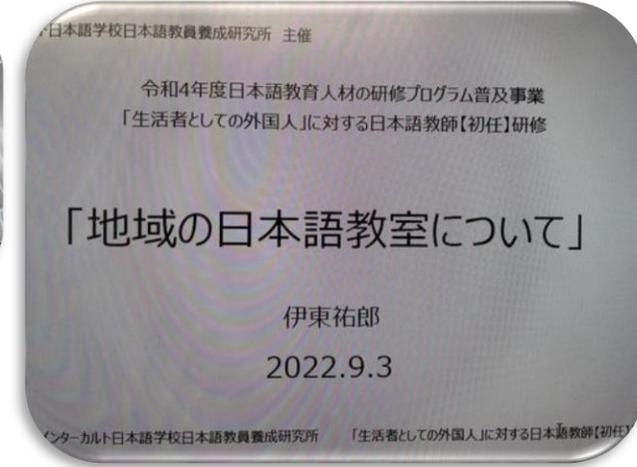
修了率 100%

- ・有資格者であること（養成講座420時間修了または日本語教育能力検定試験合格、大学で日本語教育の主専攻副専攻で学んでいる）
- ・全てのワークショップにコーディネーターとして参加
- ・報告会の資料作成と発表者、コーディネーターとしての姿勢・態度の評価70点以上

上記の要件を満たした方には修了とみなす。

3.5. 研修の様子①

日本語教師【初任】研修の様子



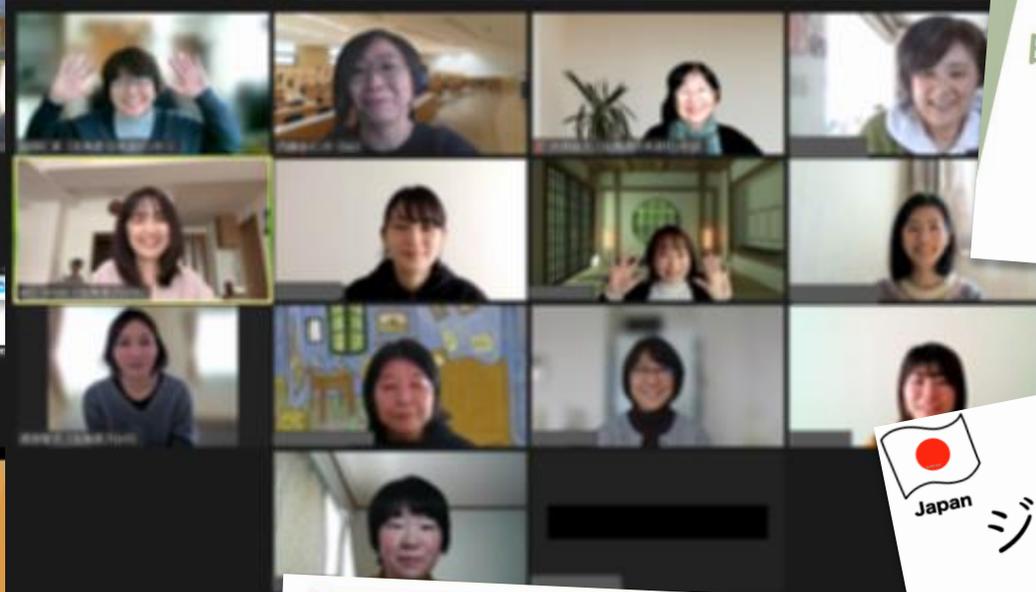
3.5. 研修の様子②



担当講師育成研修ワークショップの様子 北海道ブロック

研修中の様子

ワークショップ受講生の課題作成



3.5. 研修の様子③



担当講師育成研修ワークショップの様子 東北ブロック



ワークショップ受講生の課題作成

流れ

- <第1回>教室活動<2時間>
 - ・「地震から身を守るためのアドバイス」から知識や情報を共有する。
 - ・いくつかのテーマでグループワークし、その後発表してもらい全体で共有
 - ・終了後に各国語版があるので配布し、母語での理解も促して、第2回へつな
- <第2回>教室外活動<2時間>
 - ・NHK仙台放送局で記録映像を見たり、資料を見学したり、VR映像体験
 - ・様々な資料を通して実際に起きたことを知り、<第1回>で得た知識や情
 - ・リアリティを持たせる。
- <第3回>教室活動<2時間>
 - ・「ワークショップの感想」と「今後について（仮題）」の発表会
 - ・教室内でのネットワークを作る。（LINEグループやFBグループなど

災害が起こる前に、何ができるかを考える

課題

- ・これまで地域防災の中心的役割を担ってきた住民は高齢化し、災害弱者へと
- ・区内に数多く暮らす働き盛り世代の外国人も共助の柱とな
- ・災害を乗り越えるためには、文化や習慣が異なる相手ともつながりを持ち、事前に災害時のイメージを共有しておくことが大切ではないだろうか。

東北ブロックワークショップ・スピーカービューとの共有

①

神奈川県「やさしい日本語」で

東北ブロックワークショップ・スピーカービューとの共有

グループ活動(20分) 話す内容 (時間は目安です)

- ①イラストに何が書かれてありますか？(10分)
 - ・何が起きていますか。なにをしていますか。
- ②自分ができていることは何でしょうか？(10分)
 - ・どんな助けが必要になりますか。
 - ・その場に自分がいたらどんなことができますか。
 - 例: 避難所にいたら...
 - 家にいたら...

話している言葉がわからない時は質問しましょう。

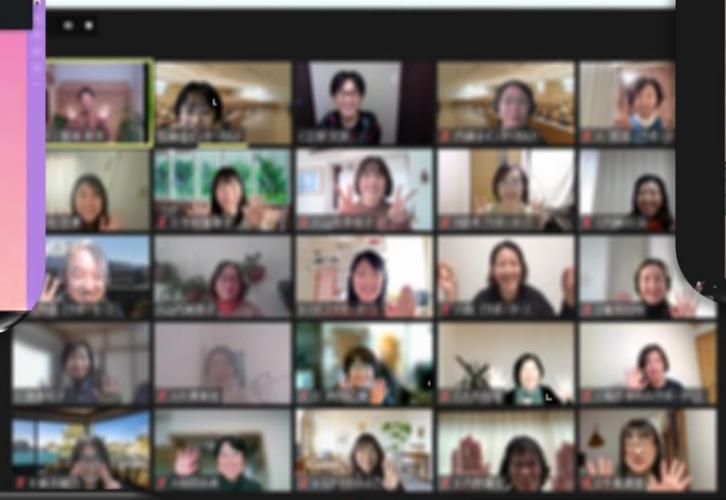


研修中に使用したイラストとBORで話すこと

3.5. 研修の様子④

担当講師育成研修ワークショップの様子 東海ブロック

研修中の様子



報告会の様子

報告会スケジュール

開会(13:30)

- ◆ 挨拶 インターカルト日本語学校 日本語教員養成研究所 所長 加藤 早苗
- ◆ 『『生活者としての外国人』に対する日本語教師【初任】研修プログラム普及事業』概要
インターカルト日本語学校 日本語教員養成研究所 所長 加藤 早苗
- ◆ 研修終了後も活動の継続を支援するポータルサイトについて
Semiosis株式会社 代表(東海ブロック) 都築 鉄平

各ブロックから課題の共有/研修の報告

- 北海道ブロック 「空白地域に日本語学習支援教室を作ろう！」
 - 東北ブロック 「地域の『防災力×日本語教師力』」
 - 東海ブロック 「日本語教室での対話・学習を促進する教材・資料を作ろう！」
- ◆ 講評
 - ◆ 閉会(16:00)



【主催】 インターカルト日本語学校 日本語教員養成研究所

【共催】 北海道ブロック：  一般社団法人 北海道日本語センター

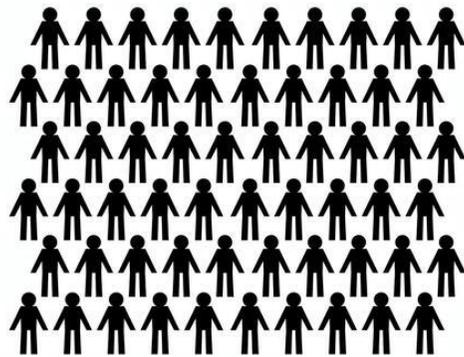
東海ブロック：  Semiosis 株式会社

東北ブロック：  インターカルト 福島サテライト

中国ブロック：  周南公立大学内サテライト

3.6. 研修前後のフォローアップ体制（学びを深めるサポート等）

学びの場・活躍の場の提供



研修修了者

現在 約300名

登録フォームを送付

登録



インターカルト日本語学校

学びの場

- ✓ インターカルト主催のセミナー・講座の案内
- ✓ 「生活者に関する」他団体のセミナー・講座の案内
- ✓ 文化庁からのセミナー・講座の案内

活躍の場

- ✓ インターカルト日本語学校教師登録の案内
- ✓ 自治体からの採用情報の案内
- ✓ 文化庁からの採用情報の案内

3.7. 評価①

【日本語教師【初任】研修 修了要件】

- ・ 有資格者であること
 - ・ 出席率が90%以上であること（または録画視聴）と毎回のアンケートの提出（録画の視聴をしてアンケートを提出すれば出席となる）
 - ・ 課題の評価 課題を全て提出、かつ課題の評価が70点以上であること。
- 上記の要件を満たした方には修了とみなす。

毎回のアンケートの提出
Google Formで作成



出席の管理
初任研修研修運営チームが管理

	D	E	F	G	H	I	J	K
日本語教育の現状と流れ		「～その後～」の背景と内容、そして「日本語教育の参照枠」とは	本語教師の役割 地域の日本語教室における日	教師の役割 Tの活用と 地域日本語教育におけるIC	① ② 知って触って考えて活かす」 生活者のためのIC T講座「	③ 知って触って考えて活かす」 生活者のためのIC T講座「	ける日本語教師の役割 多文化共生と生活者支援にお	在住外国人が活躍する、ひら
	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	2.5	4.5	4.5
	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	2.5	4.5	4.5
	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	2.5	4.5	4.5
	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	2.5	4.5	4.5
	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	2.5	4.5	4.5
	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	2.5	4.5	4.5
	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	2.5	4.5	4.5
	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	2.5	4.5	4.5
	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	2.5	4.5	4.5

アンケートは研修終了後1週間以内の提出
(録画視聴の場合は2週間以内)

出席率が90%以上

3.7. 評価②

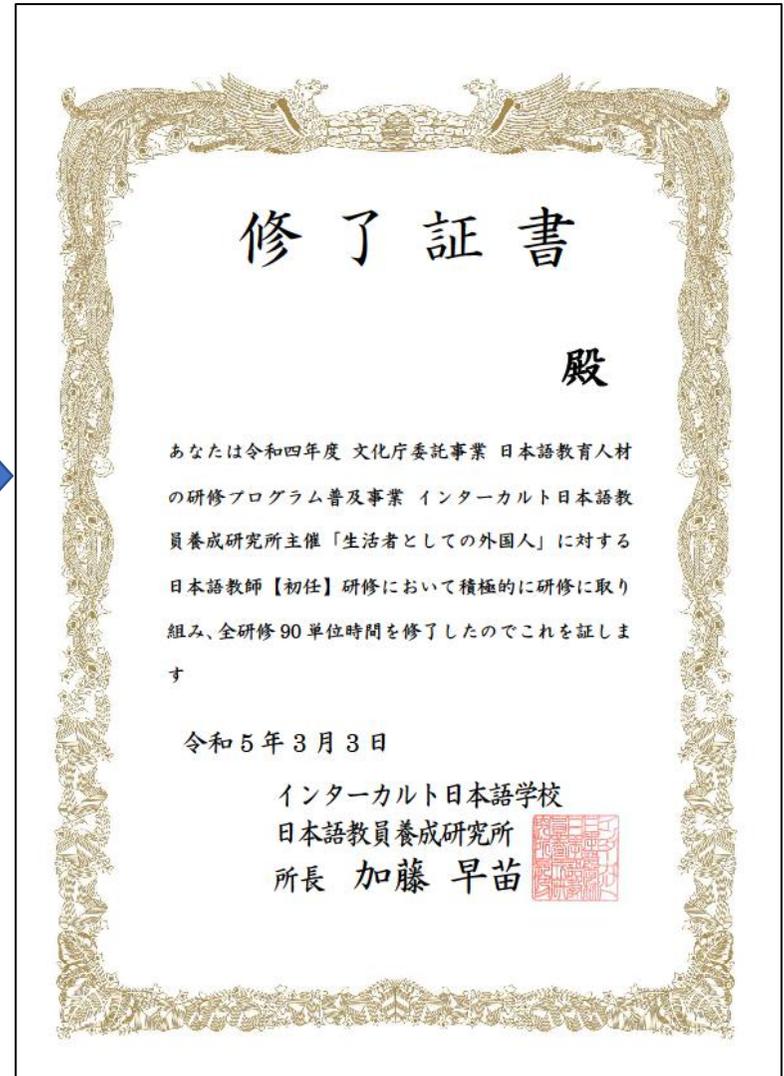
【課題の提出】

○第1回 課題

以下について調べた内容をまとめたレポートの作成と提出
(1)居住地または勤務先の市区町村の在住外国人人数、人口比、国籍、在留資格別構成
(2)自治体による多文化共生施策、日本語学習支援策の状況

○第2回 課題

振り返りレポートの作成



修了要件を満たした受講生には修了証書を送付

3.7. 評価③

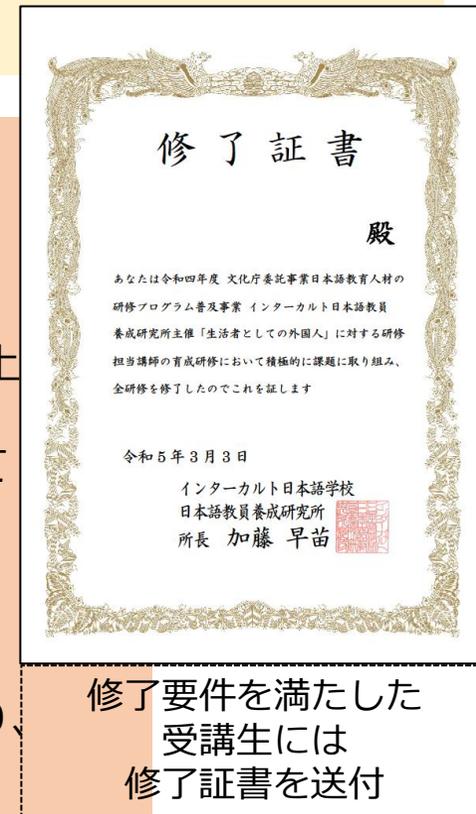
【担当講師育成研修 修了要件】

- ・有資格者であること
 - ・全てのワークショップにコーディネーターとして参加
 - ・報告会の資料作成と発表者、コーディネーターとしての姿勢・態度の評価70点以上
- 上記の要件を満たした方には修了とみなす。

【担当講師育成研修 評価基準】

○北海道ブロック、東北ブロック、東海ブロックの各リーダーが評価

- ・全てのワークショップに参加
- ・ワークショップでのコーディネーターとしての姿勢・態度の評価 70点以上
〈姿勢・態度の評価〉
 - ・講師の補助としての役割を認識し、研修の目的、到達点の共有ができている。
 - ・ブロックで企画に対して、明確な理由を持って、積極的に発案できる。
 - ・研修を成功させるための意欲を持っている。
 - ・受講生の参加態度に目を配り、状況によってはアドバイスができる。
 - ・研修の運営、進行がスムーズに行えるように、時間配分などに気を配り、状況によっては内容の微調整を講師に伝えることができる。
 - ・研修についての反省点を具体的に講師に伝えることができる。
- ・報告会の資料作成と発表を担う。



4. 事業評価概要（評価の観点及び検証方法、検証結果）①

事業評価について

- ◆ 実施体制：外部有識者と本事業の各ブロックのリーダーで構成
- ◆ 評価委員：外部有識者2名
各ブロックのリーダー 5名
- ◆ 検証方法：受講者のアンケート、実施メンバーによる自己評価の結果
報告会の結果
- ◆ 評価項目：
 - ①カリキュラムの構成
 - ②教材の検討・開発
 - ③運営・実施の体制
 - ④修了要件

4. 事業評価概要（評価の観点及び検証方法、検証結果）①

評価の項目について

①カリキュラムの構成

- ・研修内容は、研修の目標に合った内容であったか
- ・日本語教師【初任】(生活者としての外国人)に求める資質・能力の内容であったか
- ・講師間で研修の内容のダブリが無いように調整できたか

②教材の検討・開発

- ・ポータルサイトの今年度の目標を満たしているか
- ・ポータルサイトの構成が見やすいものになっているか
- ・ポータルサイトが使いやすいものになっているか

③運営・実施の体制

○広報について

- ・研修実施についての広報活動を適切だったか
- ・広報活動の時期、方法媒体等が適切だったか
- ・チラシの内容など、受講者に伝わったか
- ・目標人数は達成できたか

4. 事業評価概要（評価の観点及び検証方法、検証結果）②

評価の項目について

③運営・実施の体制

○研修のZOOMについて

- ・時間通りに開始できたか
- ・ブレイクルームは課題を全員が把握し、活発な話し合いが行われたか
- ・全員が問題なく参加できていたか。できなかった人のフォローはできたか

○研修参加について

- ・受講者に研修の情報、ZOOMの操作、情報、課題の内容等もれなく伝えられたか
- ・研修担当講師に受講者の情報を適切に伝えることができたか
- ・受講者の出席状況、課題の提出状況等、研修担当者間での共有ができていたか

④修了要件について

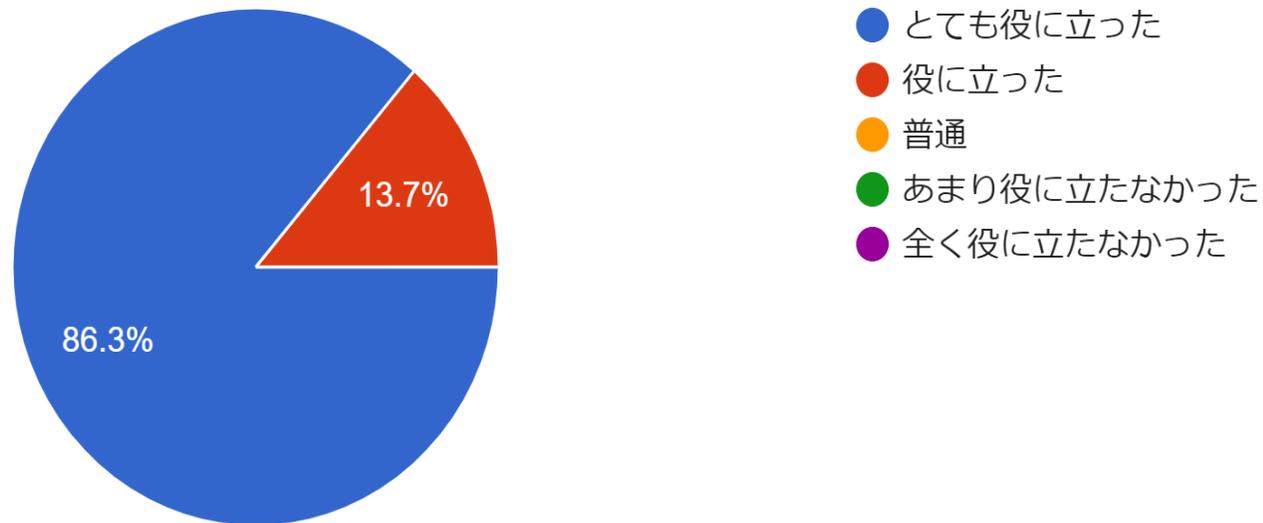
- ・研修課題の内容と評価基準は適切であったか
- ・修了要件の基準は妥当であったか

5. 成果と課題①

日本語教師【初任】研修 修了アンケートから

長い研修、お疲れさまでした。18回の研修を受講していかがでしょうか。

73件の回答

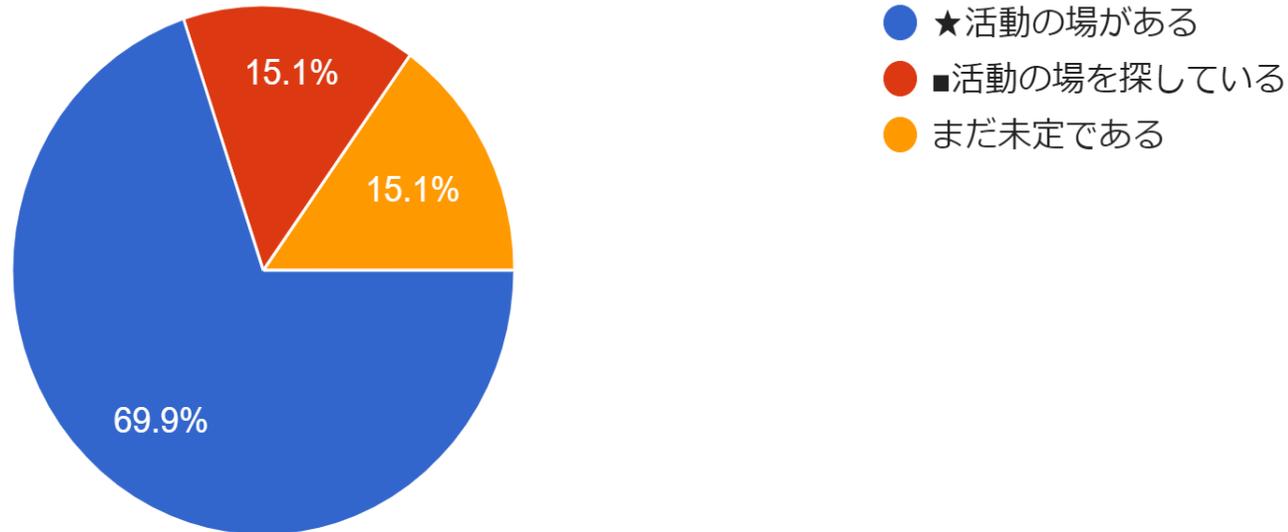


5. 成果と課題②

日本語教師【初任】研修 修了アンケートから

生活者の研修を受講されて現在の活動の場について質問です。 →次の質問にもお答えください。

73件の回答



5. 成果と課題③

日本語教師【初任】研修 修了アンケートから

【活動の場があると答えた方】

- ・地域の日本語教室
- ・日本語学校
- ・プライベートレッスン
- ・オンラインレッスン
- ・国際交流協会が主催している日本語教室
- ・区や市が主催している日本語教室
- ・NPOが主催している日本語教室
- ・小学校の日本語支援、都立高校など教科支援、大学とう
- ・文化庁スタートアップ事業の日本語教室

【活動の場を探していると答えた方】

- ・まずは非常勤講師の就職先を探す予定
- ・地域で何かできることを探しています
- ・国際交流センターなどに問い合わせる予定
- ・地域の日本語教室を探がす
- ・求人情報で調べる
- ・生活者の日本語を有償で教えたいが、見つからない

5. 成果と課題④

日本語教師【初任】研修修了アンケートから (受講生の主な感想)

- これからの日本語教育に必要な概要や知識を詳しく学習することができて良かった。また、国内や国外で活躍している日本語教師たちとの情報交換や日頃の悩みや困っていることなど共有することができたり、交流することができて良かった。
- Zoomの研修はとても良いものだと思う。(色々な方とつながりを持つことができるため。)今後も続けて欲しい。
- 今回は貴重な学びの機会をどうもありがとうございました。申し込みする前は、毎週土曜日18回もきちんと受講できるか不安でしたが、録画もご用意くださったおかげで仕事をしながら自分のペースで学ぶことができました。
- 事務スタッフの方々もとても優しく、分からないことがあったとき、丁寧に教えてくれたので安心して研修を受けることができた。
- ICT研修では、個人のレベル差があり、説明や操作についていけない時もあり、研修前に少し予習できるような情報をいただく等、もう少し小さな成功体験でもできればよかったです。なあ、と思います。
- 期間は2期ぐらいに分けてくださっても良かったかもしれません。
- 学び・発見が多く、有意義な研修でした。ただZOOMで3時間は長く、大変だったという気持ちも大きいのが正直なところです。

5. 成果と課題⑤

日本語教師【初任】研修の成果

- ✓ アンケートの結果から地域の日本語教育に必要な概要や知識を学習する研修であった
- ✓ グループ活動で様々な地域の現役日本語教師の皆様と交流を持てたことは非常に貴重な体験となった
- ✓ 研修で、地域の様々な事例を学ぶことができた
- ✓ ZOOMの研修であり、さらにそのなかでICTの勉強するなんてと最初は心配もありましたが、講師の方、またスタッフの方が丁寧に対応してくださり、何とかついていくことができ、貴重な学びであった

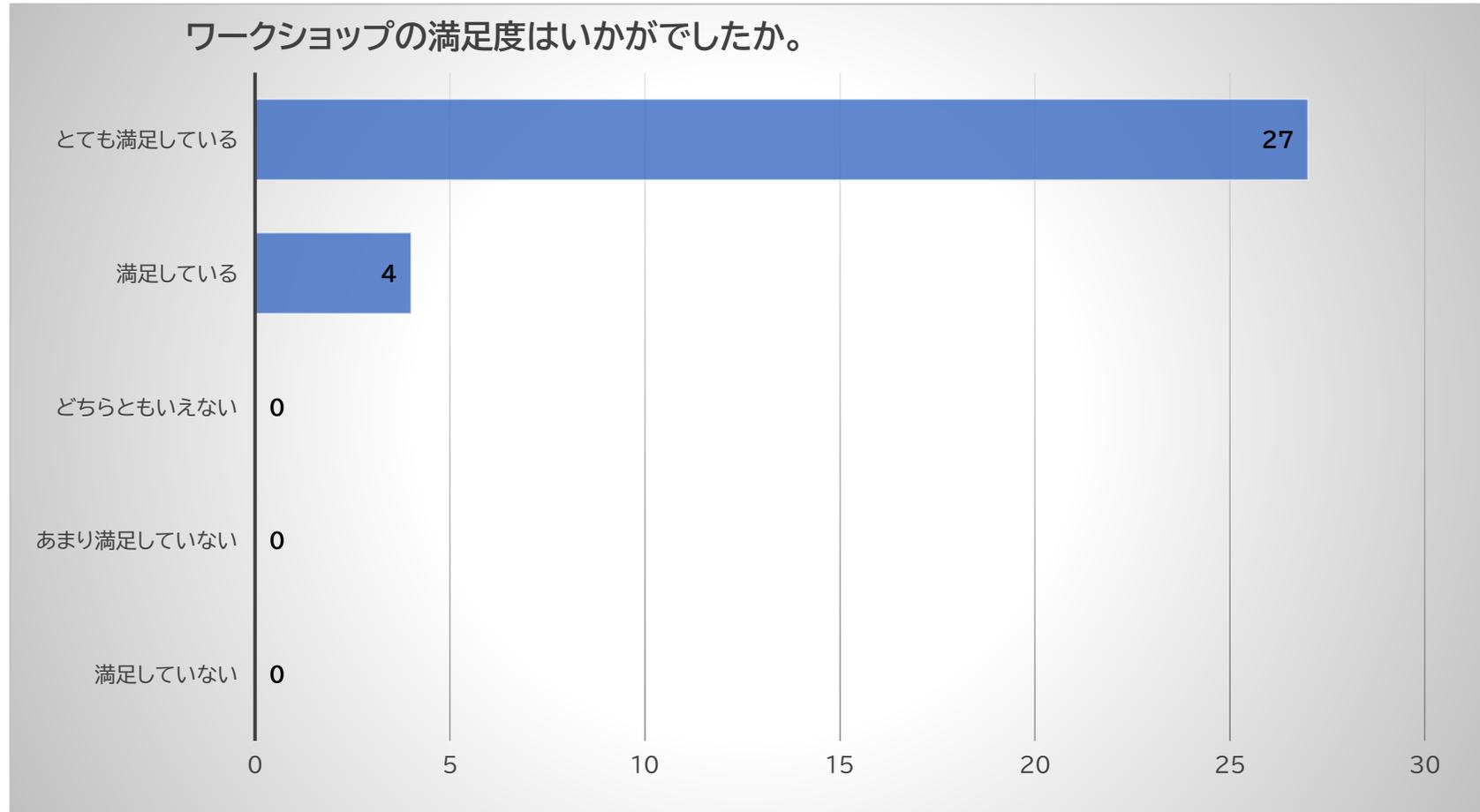
日本語教師【初任】研修の課題

- 全18回の3時間の研修は、受講生にとって負担が多かった
- ICTの研修など、リアルタイムで受講してほしい研修もあったが、録画受講を可能にしたので、研修内容が十分伝わらなかった
- 地域で活動している受講生と活動をしていない受講生との温度差はあったので、グループ活動など工夫が必要であった

5. 成果と課題⑥

担当講師育成研修 ワークショップのアンケートから

北海道ブロック、東北ブロック、東海ブロック



5. 成果と課題⑥

担当講師育成研修 ワークショップのアンケートから

ワークショップで学んだことを今後どのように活かしていきたいと思いますか。

◆北海道ブロック◆

・「多文化共生、地域社会」という大きな話でなく、だれもが遠慮することなく自分らしさを発揮して、相手のらしさも受け止めていけるように、まずは近くの人から接していきたいと思いました。



・グループ活動を通して、いろいろな考え方があることに気づきました。自分の地域で日本語教室を始める時に、ワークショップで学んだことを活かしたいと思います。

◆東北ブロック◆

・自分の地域で防災をテーマにつながりあう活動、共通体験の場を作りたいと思います。立場(日本人から外国人に教える／外国人から日本人に教える)が常に固定されることなく、対等性が保てるよう日本語教師として様々なしかけをしていけたらと思います。



・地域の「防災力」×日本語教師力というテーマでしたが、そこにとどまらないヒントを得られました。「在り方」というか。安心して過ごせる場作り、お互いに楽しく学びあえる場づくりを今後もしていきたいと思います。

5. 成果と課題⑦

担当講師育成研修 ワークショップのアンケートから

ワークショップで学んだことを今後どのように活かしていきたいと思いますか。

◆東海ブロック◆

・今回はfinger boardの新しい使い方を知ることができ大変参考になりました。今は対面で使うしかできないのですが、今後はオンラインでの活用も視野に入れ、オンライン学習のノウハウをもっと学んでいきたいと思います。また、自宅での自学に役立てるような方法も考えたいと思っています。

・地域の日本語教室の活動の中で、今回学んだJamboard、Canva、finger board を活用し、楽しい授業、わかりやすい授業をしていきたいと思っています。また、日本語教育を勉強していない日本人ボランティアスタッフが外国人支援ができるように、ICTを活用して何ができるか考えていきたいと思っています。



5. 成果と課題④

事業実施により見えてきた課題と、その課題解決のために 今後取り組むべき事 日本語教師【初任】研修

見えてきた課題：修了アンケートの「研修終了後の活躍の場について」から

- ✓ 令和2年度から4年まで、普及事業を実施してきて、受講生は300人以上になります。現状としては、研修終了後、フォロー体制として、セミナーや講座の案内などにとどまっており、その先の活動の場へつなげることができていない状況です。アンケートからも、どのように探していいのかわからないことが明確ですので、研修終了後のフォロー体制を作ることが必須に思います。
- ✓ 文化庁の普及事業を実施している団体や文化庁とも連携を取りながら、研修を受講した修了生が、地域で活動できる場へつなげる体制を作ることが必要に思います。
- ✓ 当校の実施した研修では、地域の事例の紹介を多く取り入れてきましたが、地域で活動をしていない日本語教師向けに、OJTなど、現場で実習できる体制づくりも今後の研修に取り入れることも必要に思います。